

お問い合わせ先

海上保安庁海洋情報部水路通報室

上席水路通報官 出合 好美

03 - 3541 - 4233 (内線693)



平成23年9月29日

海上保安庁

## 被災港湾に係る水路誌追補を発行

海上保安庁では、航海安全のため海の案内記である水路誌を刊行しています。このたび、東日本大震災の被災港湾について最新の情報を記載した「本州南・東岸水路誌追補」を9月30日に発行します。

当追補には被災港湾の入港時の注意事項、使用可能岸壁、震災により移転した港湾関係機関の連絡先などが掲載されています。

1. 東日本大震災により被災した港湾の多くは「本州南・東岸水路誌」に掲載されており、この現行版は、震災当日の3月11日に発行されたものでした。震災後、被災港湾の応急復旧が進められ、使用可能岸壁も多くなったことから、当水路誌の内容を補うため、八戸港から鹿島港までの本州東岸に在する主要14港について記した水路誌追補を9月30日に臨時に発行します。

2. 今回発行する水路誌追補では、平成23年9月初旬現在で、被災港湾の使用可能岸壁や移転した港湾関係機関の事務所の連絡先等について掲載するとともに、参考図なども添付しています。

被災港湾では、いまだに障害物が多数存在することや本復旧により使用可能岸壁が変更となる場合があることから、入港する際は、関係機関へ状況確認を行う必要があります。

### 3. 水路誌追補の概要

- (1) 書誌番号・書誌名 書誌第101号追 本州南・東岸水路誌追補第1
- (2) ページ数 36頁
- (3) 価格 1123円(税込み)
- (4) 発行日 平成23年9月30日
- (5) 記載例 次頁のとおり

4. 水路誌追補は最寄りの水路図誌販売所等で購入できます。この販売所等は次のホームページ又は当庁刊行の水路図誌目録をご覧ください。本庁及び管区本部の「海の相談室」までお問い合わせください。

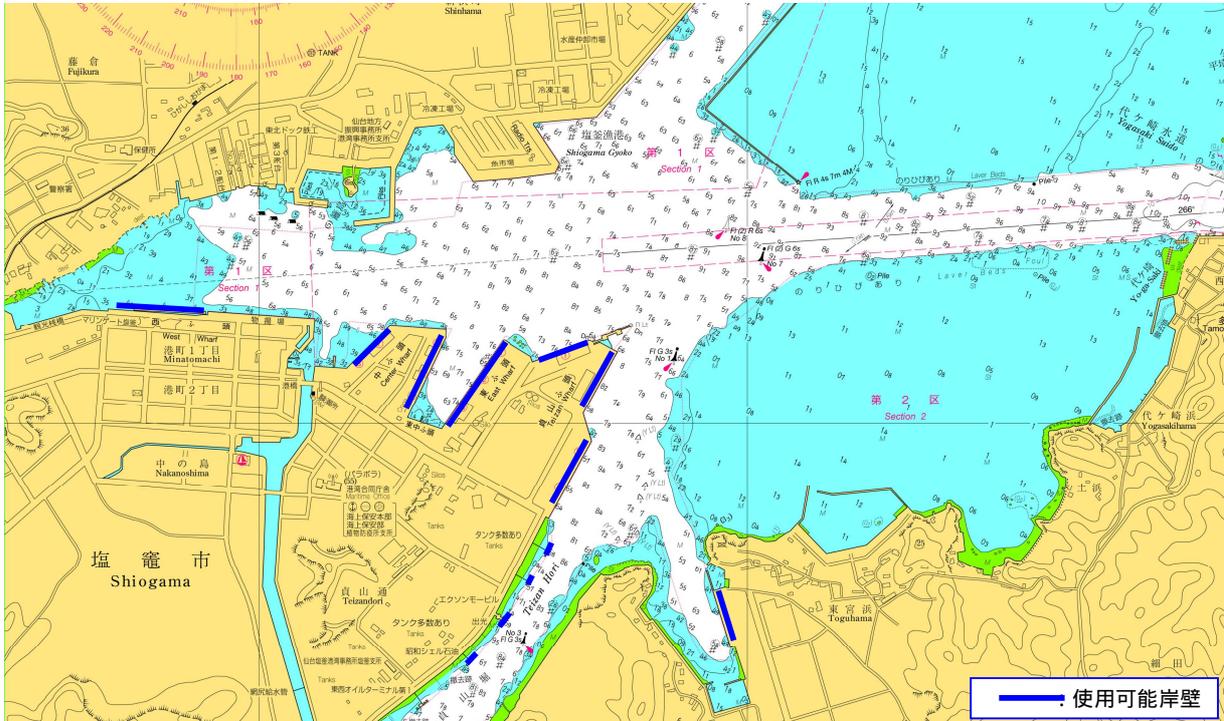
ホームページアドレス <http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KOKAI/ZUSHI3/default.htm>

海の相談室(本庁) 電話03 - 3541 - 4296

(記載例)

(平成23年9月1日現在)

図8 仙台塩釜港(塩釜区)



1 入港する際の注意事項等

- (1) 入港する場合は、事前に港湾管理者等から港湾施設等について詳細な情報を入手すること。
- (2) 海上保安庁では東日本大震災後に仙台塩釜港の水深測量を実施し、その結果を反映した次の海図が発行されている。航海には最新の海図を使用すること。

海図番号	図名	縮尺	図積	発行日
W64 <sup>A</sup>	仙台塩釜港塩釜	1/10,000	全紙	平成23年9月9日
W64 <sup>B</sup>	仙台塩釜港仙台	1/10,000	全紙	平成23年9月9日

2 港湾施設

(1) 使用可能岸壁

使用可能岸壁の要目等については、次の表1(海上保安庁、港湾管理者及び国土交通省の資料をもとに編集)のとおりである。

表1 塩釜区

岸壁名	長さ	水深	備考
真山ふ頭1号岸壁	149m	7.5m	
真山ふ頭2号岸壁	160m	7.0m	
真山ふ頭3号栈橋	130m	5.5~6.5m	
真山ふ頭4号栈橋	130m	5.5~6.5m	
東ふ頭1~3号岸壁	330m	7.5m	
中ふ頭4号岸壁	130m	7.5m	
中ふ頭5・6号岸壁	128m	3.0~5.0m	
中ふ頭7・8号岸壁	157m	3.0~4.5m	
西ふ頭栈橋	320m	4.5m	
東宮ふ頭栈橋	180m	4.5m	

(注) 岸壁名の欄の ~ は、図8中の使用可能岸壁の位置を示す番号

## 参 考

### [水路誌とは]

船舶の安全な航海及び停泊を担保するため、必要な諸情報を取りまとめた海の案内記で、航路の状況、沿岸及び港湾の地形、港湾施設、港湾に関する法規などを詳しく記述しています。

現在、国内を対象とした水路誌は日本周辺を5つの海域に分け、日本語版と英語版を刊行し、5年に1回改版しています。

### [水路誌追補とは]

水路誌の記載内容を最新の状態に維持するために刊行するもので、本誌の刊行後、新たに収集した情報により、当該水路誌の訂正すべき事項を収録したもので、国内を対象とした水路誌について、改版を行う年を除く毎年1回発行することとしています。